

・発表内容詳細

C班 青木(南台,総務部長) 青田佳澄(広地)

石丸(南ヶ丘,副会長,環境) 倉田(西松本,スポ進) 山田(南桜,厚生部長)
事務局 小船

このグループはこの1から5まであるんですけど、項目が、それ通りに喋ってません

入り口の1番、ボランティアを始めたきっかけから入るんですけど、身近な人に巻き込まれる形が多いと思うんですね。言い方がちょっとあれなんですけど、それこそ、人手が足りないから、やってくれもしかり、妻がやってるからあんたもやれよみたいなのもしかり、そういう巻き込まれる形っていうのが、やっぱり多いとのことで、ここでこの巻き込まれる形っていうのに着目して、若い人とか 周りの人をどう巻き込むかっていうところに焦点を置いて、我々はお話いたしました。あとは、地域の問題点をどんどん上げていく仮定で、若い後継者がどんどん足りなくなっているのだとか、ちょっと子ども会の年数が1年で、変わってしまうので、引き継ぎが、ちょっとコロナ禍を経てできていないだとか、あるんですけど、何よりも大事だと我々が感じたのが、発信力が足りないというところだと思うんですね。その、発信力というところに、発信力とその地域への巻き込み方の2つに重きを置いて、3つの大きいブロックに分けてお話をしました。

まずは、連絡に関してなんですけど、南が丘で、大きなマンションが建てられたとのことで、そちらに、たくさん意欲のある若い方々が 入ったとのお話をお聞きしまして、そちらから、回覧板が回らないと、まあそもそも、存在を知らないという方々がね、多いらしいです。それで、大体は掲示板に、情報を紙媒体で張り出すという形で、町内会からの連絡を、しているんですけど、やはり、それだけだと、どうしても流し見してしまったりとか、そもそも回覧板が途絶えてしまうという危機もあるんですけど、それをどうにかできないかという話で、やはり、LINEだとか、SNSの普及が、鍵になってくるかなという結論に至りました。やはり、緊急連絡先だとか、最近では、こう繋がらないだとか、電話だけだと大変だということで、LINEに移行しているという話もありました。SNS、最近の若い人は、こう、LINEも使うが、インスタinstagramを使うという、現状を踏まえて、インスタ等を普及していくことが、若い人の引き込みにも、もしかしたらできるかもしれないということになりました。

若い人に関連して、次に 中学校や学生についてのお話に行きます。

笹下中学校でのお話をお聞きしたんですけど、笹下中学校には、ボランティアをやりたい人が数多くいるみたいなんです。ちょっと内申が入るからやりたいなっていう人もいるみたいなんですけど、そもそも、どのタイミングで、どういうイベントがあって、ここで何をやるんだろう？みたいな。そもそも町内会というか、地域が何をしているのか、わからないという問題が発生しているそうです。その実際にあったこととしては、年間予定表をくれ。そういった形で、何をやってるか、そもそも知らないという、声も出ているそうです。そこら辺の、そもそも知名度が足りていないというところもちょっとした発信力の低さというか、コロナ禍、コロナ入っちゃったのもあるんですけど、引き継ぎがうまくできていなかったかなという問題点がありました。ここら辺、中学生は、もう全然、もうすごい動けて、パワーがみなぎっているんで、例えば、さくら祭りの提灯など、結構、力仕事が必要で、高齢化している町内会では、もう悲鳴が 上がるような、そういった仕事を、もっと中学生や学生さんにお手伝いも、ボランティアのお声がけをして、どんどんこちらから発信して行って、入り口を増やしていくということが、ここら辺の解決に繋がるという感じでございます。

最後に、町内会で続いている文化の1つの夏祭りについてお話します。

夏祭り、最近では太鼓ではなく、バンドを呼んで、太鼓がなくなる代わりに、バンドで演奏して、盛り上げるという町内会もあります。こちらのバンドは、地域の人に出演を依頼するそうで、こういったところも、例えば中学校で言ったら、吹奏楽部とかバンドを趣味でやっている人とか、そういった

方々にお願ひすれば、学生さんがスキルを生かすことができる場に、なるんじゃないかっていうところで、地域の入り口に、入りやすい入口になるかもしれないね、という感じですね。

あとは、余談にはなるのですが、夏祭りなどは、地域ごとにイベント、やり方が各町内会で、違うらしいんですね。そうなんですけど。そういった話を、共有する、座談会を開いたりして、共有する機会があれば、我々の各町内会に対しての理解も深まって、楽しいものになるんじゃないかという話も出ました。

他のアイデアとしては、実例をもとにお話をしたんですけど、学生さんがイベントの主催になって、それを町内会がバックアップして、開催まで進めていくという町内会は、他の地域の方であるという話を聞きました。学生さんが、そういった地域の方々を先導する立場になれば、いち早く地域に溶け込める。そして、こういうことやってるんだねっていう知識がより深まる手っ取り早い方法になるので、そういう小さいことから、そういう機会があれば、楽しそうだなと思いました、発信力に関しては、ボランティアの数を、これも手伝って、これも手伝って もらおうみたいなのを増やして行って、こちらから積極的に声をかけるっていうのが、やはり大事だということになりました。基本中の基本なんですけど、待ってるだけじゃ、来ないので、もう、こちら側からも積極的にSNSだったり、ささげ広場もそうですし、いろんなものを、使用してこちらからたくさん発信していくということが、やはり大事だね、という話でした。

色々話しましたが、こちらでの会議はこんな感じでした。はい、以上です。